

地方の小さな“まち”が創りだす きらりと光る教育をめざして

地域の
特色ある
活動

和歌山県海南市教育委員会

1 はじめに

本市は、和歌山県の北西部に位置し、年間を通して温暖な気候に恵まれていることから、みかんやびわ、桃などの果樹栽培が盛んであり、沿岸部では、シラスや鱧、ワカメなどの海の幸にも恵まれています。



また、日本四大漆器の一つである「紀州漆器」の産地（黒江地区周辺）としても知られ、経済産業大臣から伝統工芸品の指定を受けている他、日用家庭用品（特に水回り製品）の出荷は全国的にも高いシェアを誇っています。

さらに、今も往時の面影を残す熊野古道が南北に通り、そこに9つの王子（熊野参詣の道中での遥拜や休息・宿泊場所）跡が点在するとともに、和歌山県下の国宝建造物7件のうち実に4件が現存するなど、文化財の宝庫でもあります。

【本市の概要】

- ・人口 … 52,005人（H29年10月末）
- ・面積 … 101.06km²
- ・交通アクセス … 阪和自動車道で大阪市内から約1時間。JR特急くろしおで新大阪から約1時間10分。

2 こんな学校教育の実現をめざす

誰もが分かりやすく、市内教職員にとっても常に意識しやすい具体的な目標として、以下5項目を提示し、校長、教頭はもとより全教職員に徹底するとともに、各種研修会やPTA、地域の集会など、機会あるごとにその内容を伝えてきました。

- あいさつのできる子供に育てる
- いつでもトイレのスリッパがきちんと並べられている学校（園）にする
- そうじから学ぶ教育をする
- 人と人との関わりから学ぶ教育をする
- 一人一人の子供に確かな学力・豊かな心・健康な体と体力をバランスよく育てる

あいさつは、人と人が心を交わす最初の言葉であり、自分から相手に心を開く言葉です。

トイレのスリッパを並べる心遣いができれば、周りの人を思いやる心や、家族や集団、社会の中でより良く生きるための心が育つとの思いがあります。

毎日のそうじ（清掃活動）については、特に重視しています。先生と子供たちが一緒になって生活の場である学校をきれいにすることで、自分を省みる心が育ち、自らの心を磨くことができると考えています。

人と人との関わりから学ぶことは、日々の学校生活の中で起こる様々な人間関係の事象を捉えて、みんなで考え、学ぶことを繰り返し、自分の行動や集団としての望ましい在り方を模索していきます。

そして、「知・徳・体」、この3文字に込め

られた教育の心髄を、学校教育の中でバランスよく育てることで個々の人格の形成に資するものと考えています。

これら5項目を教職員が日々実践することで、子供たち一人一人の頭・心・体を鍛え、それぞれがどのような環境でもたくましく生き抜く力を身につけてほしいと願っています。

なお、本市では、良好な学習環境を確保するため、平成27・28年度にかけて全ての学校に空調設備を整備するとともに、学校管理規則を改正し2学期の始業を8月21日からとしています。また、新たに確保できた授業時間数については、年間を通じて余裕を持った学校運営を展開するため有効に活用しています。

3 地域との連携

文部科学省が進める学校支援地域本部事業について、和歌山県では「きのくに共育コミュニティ推進事業」として全県的に推進しています。

この事業は、地域住民等が学校支援ボランティアとして学校運営に協力いただくことで、地域教育力の向上と学校を核とした地域コミュニティの再構築を目的として実施しているものです。

本市では、全ての小学校区で実施しており、共育コーディネーターを中心に、例えば、小学校低学年の登下校時の見守り活動や、図書室の整理、学校環境の整備、家庭科などの実習サポート、通学合宿など、様々な学校活動に参加し支援いただいています。

学校と地域が連携することで、学校にとっては、教職員だけでは対応が難しい課題への支援を地域の方々からいただき、地域にとっては、豊かな人材を活かすことで、地域の団体の活動が再び活性化するなど、「学校支援活動」と「地域の活性化」が密接に繋がっています。今後も様々な場面での支援をいただきながら、また、コミュニティ・スクールの導入も視野に入れながら、一層連携を深めていきたいと考えています。



下校時の見守り活動



図書ボランティア



家庭科の実習サポート



通学合宿にて

4 おわりに

海南市は、平成17年4月1日に隣接する1市1町が合併し誕生しました。合併後、小学校の6校を2校に、中学校2校を1校に統合し、現在、市立幼稚園9園・小学校12校・中学校7校・女子高等学校1校と幼保連携型認定こども園1園をあわせ、計30の学校・園があります。

全国の地方都市が抱える現状と同様に、本市でも、少子高齢化とともに人口減少が大きな課題となっています。また、市内で育った子供たちの多くが、市外県外に進学・就職していく状況です。

本市は地方の小さな“まち”ではありますが、本市で学んだ子供たち一人一人が、就学前や義務教育等の期間を振り返って、「海南市の学校・園ではこれを学んだ」と胸を張れるよう、何か「きらり」と光るものを残したい、その思いで教育を進めているところです。



教育長
西原孝幸